

事業報告書（令和元年度）

事業名 未来に生かす里山再生事業 ～南海トラフ地震への対策を日ざして(4)～団体名 就実・森の学校 担当者名 石田省三

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

開催日時	行事名	参加者	備考
1 4/21	2019 春の訪れコンサート	4 5 0	出演 8 団体（地元・就実生）
2 4/23	春の里山散策	9 0	就実小学校 1・2 年生
3 4/12	避難路整備（～15 まで3日）	5	曹源寺越～アカマツ林周辺
4 4/27	タケノコ掘大会	2 0	学園・地元希望者
5 5/21	操山ウオーク	7 5	就実中 3 生、野外生活体験
6 6/23	こども園里山散策（1）	4 0	年長組（笠井山・バンブーハウス）
7 6/16	目指せ防災リーダー	4 0	里山センターと連携
8 6/21	第1回グリーンボランティア	1 5	一般（富山学区）を対象に実施
9 7/14	ちびっこ里山探検	2 0	地球ランド（幼児と保護者）
10 8/3-4	サマーフェスタ in 就実森の学校	1 0 0	2 日間 プールを設備
11 8/30	夜の植物園探検	3 0	バラグアイオニバス観察・半田山
12 10/14	JR 祭り里山展示		岡山駅東口で活動状況展示
13 10/28	こども園どんぐり拾い	1 0 0	工作・竹ぼっくりあそび
14 1 1 / 3	TSC 街花フェア		幸町公園にて里山活動展示
15 1 1 / 10	古墳時代生活体験（2）	2 0	めざせ！古墳博士
16 1 1 / 19	防災協定締結式	1 2	就実と中区今谷、出村町内会
17 1 1 / 24	第2回グリーンボランティア	5 0	アカマツ林の下草刈り
18 1 2 / 1	TSC ウオーク	4 0	森の学校、里山センター間散策
19 1 2 / 15	第3回グリーンボランティア	5 0	アカマツ林の下草刈り
20 1 2 / 22	里山における森林資源調査	2 0	就実大学教育学部生
21 1 / 21	昔の生活体験	5 0	七輪の着火体験（小3）
22 2 / 2	幼児・里山野外生活体験	3 0	焚火、焼き芋、凧揚げ
23 2 / 9	古墳時代生活体験（3）	1 5	塩づくり、赤米、シイの実
24 2 / 13	津島幼稚園里山散策	1 5 0	笠井山・植林地散策
25 2 / 22	コバノミツバツツジ植林	3 0	富山エコクラブ援助事業
26 2 / 25	こども園里山ウオーク（2）	4 0	年長組（笠井山・植林地散策）
27 3 / 8	里山ウオーク in 就実森の学校	5 0	TSC 主催事業シイタケ植菌他
28 3 / 14	里山レンジャー（里山センター）	2 0	操山散策道の標識点検

<p>2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ</p>
<p>里山で実施する様々な活動を通して、児童、生徒、また地域の方々に、その重要性を再認識してもらうように努めてきた。今年度は本地域の重要課題の一つである防災に取り組んで6年目となるが、活動内容及び新たな取り組みについて報告する</p> <p>今年度も例年同様、避難地の整備、避難経路を維持するための道の整備、緊急用エネルギー源としての竹炭・木炭の備蓄などを実施した。さらに、今年度は他の地域の人にも防災への理解を深めてもらうため6月16日に「目指せ防災リーダー」というプログラムを実施した。対象は岡山市全域の年少者とし、起震車による地震体験、消火器の使い方、救命救急体験、防災食の調理及び試食などを行った。できるだけ広い世代の人たちに体験してもらうことで次の世代への橋渡しになったことと考える。</p> <p>「就実・森の学校」の活動は緑の回復にも力を入れており、絶滅しつつあるアカマツ林の再生、およびコバノミツバツツジの回復にも取り組んでいる。この活動には中学生が積極的に取り組んでおり今後の活動の広がりにも期待が持てる場所である。</p>
<p>3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）</p>
<p>昨年、富山学区で防災に関する活動（かぼちゃクラブでの高齢者を対象とした防災講演会、また富山公民館と協働して実施した富山中学校、富山学区連合町内会との合同防災訓練）はこの地域で初めての大規模な防災訓練となり、地域の方々に大きな影響を与えたことと思われる。そのためこの訓練後、富山出村町内会、および中区今谷町内会から新たに防災協定を結びたいとの申し出があり、11月19日に防災協定を結んだ。これにより4町内会と協定を結ぶことになり、施設面等のより一層の充実を求められることになった。今後はそれぞれの町内会とより緊密な連絡体制を維持し継続的な活動を展開していきたい。</p>
<p>4. 今後の課題と展望</p>
<p>今後の課題としては、避難地の設備の充実をまず上げておきたい。</p> <p>現在、避難地は1万m²程度であるが、できるだけ広い用地を確保するため、今年度、避難地南東の一角（約20m×50m）の竹を伐採し平坦地を造成した。しかし、避難してくるたちのためのトイレの増設、水の確保のためのタンクの設置（500リットル×2）を計画したがいまだ実現していないのが実情である。次年度は水の確保を最大のテーマと設定し、バイオトイレの導入も検討したい。</p> <p>本事業を始めて10年になるが、常に問題となるのが次世代の人への引継ぎ問題である。本施設は学園が運営しているものなので、近いうちに教職員の中から適任者を見つけることができると考えている。</p>

2019 報告書

未来に生かす里山再生事業

～南海トラフ地震への対策を目ざして～

就実・森の学校

2020年度の主な活動内容は以下の通りで、年間で28の事業を計画実施し、およそ1,600名の参加者を集めた。

1. 里山の維持管理
2. 里山への理解を深めるためのイベント開催
3. 児童、生徒を対象とした野外生活体験
4. 南海トラフ地震に対する諸事業

ここでは本年度の活動のなかから、南海トラフ地震対策について報告する。

今後30年以内に70～80%の確率での発生が危険視されている南海トラフ地震に対して活動を始めて4年が経過した。いままでに「就実・森の学校」を避難地として整備し、竹林の整備で伐採した竹を竹炭にし、インフラが立たれた際のエネルギー源として活用することを提唱するなど様々な活動を展開してきた。

2020年度の主な活動を写真で紹介する。

- ① 曹源寺越からアカマツ林への避難道の新設（4月12日～15日）と日常的に実施する避難経路の整備（年間、不定期）



避難路の新設



完成した避難路、約400m短縮



夏草が生い茂る避難路



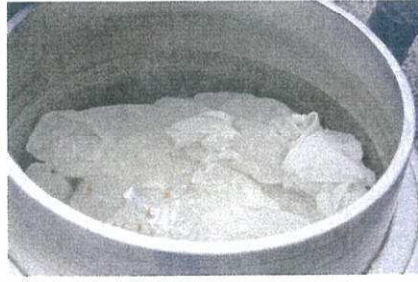
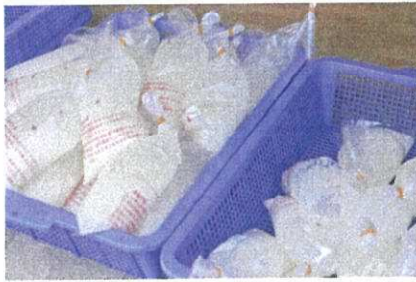
日常的な避難路保守作業



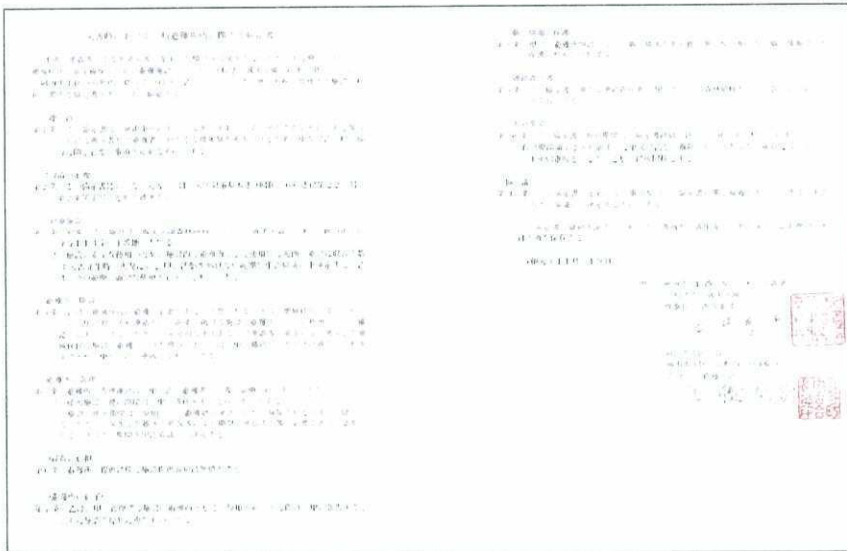
スミヤケールによる炭の焼成

- ②防災訓練（目指せ防災リーダー・6月16日（日） 参加者40名）





③防災協定の締結・11月19日 就実学園と中区今谷・富山出村町内会



防災協定調印式

④避難地における施設の充実に向けて



避難地全景



新設した中型炭焼き窯



拡張した避難地約1,500㎡

さいごに

今後は以下の施設のより一層の充実を考えている。

トイレ： トイレは現在仮設の物が3基あるのみで多数の住民が避難した場合には対応しきれない。ダンボールトイレや、コンクリートの側溝と一人用テントによる仮設トイレ等の設置も考慮中である。

水の確保： 災害時には一日に3リットル、3日分の水の確保が望ましいとされている。現在は水道が通水しているが、インフラが絶たれたときの応には苦慮している。令和2年度には500リットルタンクを2基設置し順次増設する予定だが、水道水の夏場での保存期間等研究課題である。

避難地の拡張： 現在、防災倉庫の増設も含み避難地を拡張するための作業が進行中である。令和2年3月末にはおよそ1500㎡の避難地が広がる予定である。

居住空間： 現在、仮設テントの面積は11m×11m程度である。緊急の場合の備えて厚手のブルーシート（10m×10m）のものを20枚準備しているが、今後は軽量テントの準備も考えている。

生活物資： 災害時の緊急医薬品の備蓄も必要である。毛布等の防寒用品も必要となってくるものと思われる。

食糧の備蓄： 現在、備蓄量はわずかであるが、今後、米など長期保存の可能な食品を備蓄していく必要がある。

多くの問題、課題を抱えながら、避難地の保全に努めているが、今後は防災協定を締結した各町内会をはじめとする近隣の町内会、また行政からの援助も期待したい。